NIE実践報告

1．タイトル：**自分の気持ちをのせて「読んでみよう」**

2．学校名

大阪府大阪市立湯里小学校

3．実践者名（代表者名）

前田賀世

4．学年

第4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語・総合的な学習の時間　36人

6．単元（本時の学習課題）名

詩を読もう

7．目標（狙い）

連載されている詩をグループ別に読み進め、語彙や発音に気をつけて発表し、その詩の良さを伝える。お互いの詩の発表を聞き合って意見文を書く。

8．評価の視点

・新聞に連載されている詩に興味をもち、すすんで読むことができる。
・詩に書かれている語彙の意味や内容の中心・場面の様子がよく分かるように声に出して読むことができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

第1次 たくさんの詩に出会おう
第2次 詩を読み深めよう　　第3次 詩を読んで発表しよう【本時】

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

○ 日替わりで、全ての詩を通読する。
○ グループごとに担当する詩を決める。（1グループ9人で、1グループにつき7つの詩を割り当てる。）
○ 語彙の意味や発音を考えながら読み深める。
○ 読み方や役割・表現などについてグループごとに話し合う。
○ 工夫した読み方で、グループごとに発表する。【本時】
○ 他のグループの発表を聞いて、感想や意見を交換する。【本時】
(留意点)
・日々の実践のため、第一次は、国語の授業の始め（15分程度）に行う。
・表現方法は、声の大小・発音の他に身振りや手振りも工夫の1つに取り入れる。
・意見交換では、先に自分の課題を相手に伝え、課題に近づいた表現に意識して取り組めるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

日替わりで詩を読み、連載の楽しみを児童自らが感じることで、自分たちから新聞を開く姿も多く見られるようになった。発表の意見交換では、めあてが達成できたたり、良い所をほめあったりして自信につながったという意見が多く聞かれた。

12．成果と課題

この実践を通して、児童と新聞の距離が一層縮まったように思える。これからも、新聞の読み聞かせや音読をきっかけに、児童の読解力や表現力を伸ばせるような実践を続けていきたい。そして、もっと児童と新聞の関わりを持たせていきたい。